

8. これからのライフスタイルと社会貢献について

8-1 豊かさの考え方 (問31)

問 31 今後の生活において、物の豊かさや心の豊かさに関して、次の考え方の中で、あなたの考え方に近いのはどれですか。【回答数：○印を1つだけ】

「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」の方が、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」よりも多い結果となりました。これは、平成27年調査と同じ結果となっているものの、平成17年調査と比べると9.9ポイント減少しています。

【全体】 (図8-1-1)

- 「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」は43.4%と、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」の23.7%を19.7ポイント上回りました。

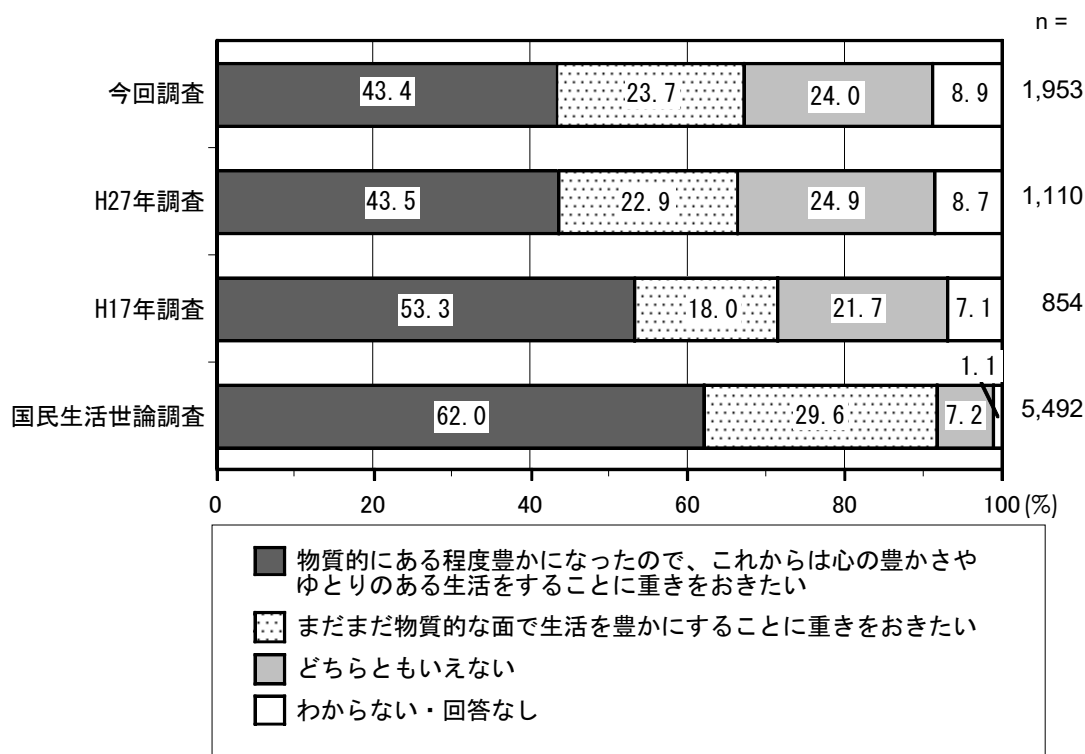
【前回・前々回比較】 (図8-1-1)

- 平成27年調査と比較すると、全体ではほぼ同じ結果となっているものの、平成17年調査に比べて「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」は9.9ポイント減少し、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」が5.7ポイント増加しています。

【世論調査比較】 (図8-1-1)

- 国民生活世論調査の結果と比べると、両選択肢とも大口町民のパーセンテージが下回る結果になっています。これは本町のアンケート結果では「どちらともいえない」が24.0%と多いことによるものです。

図8-1-1 前回・前々回比較・世論調査比較「豊かさの考え方」

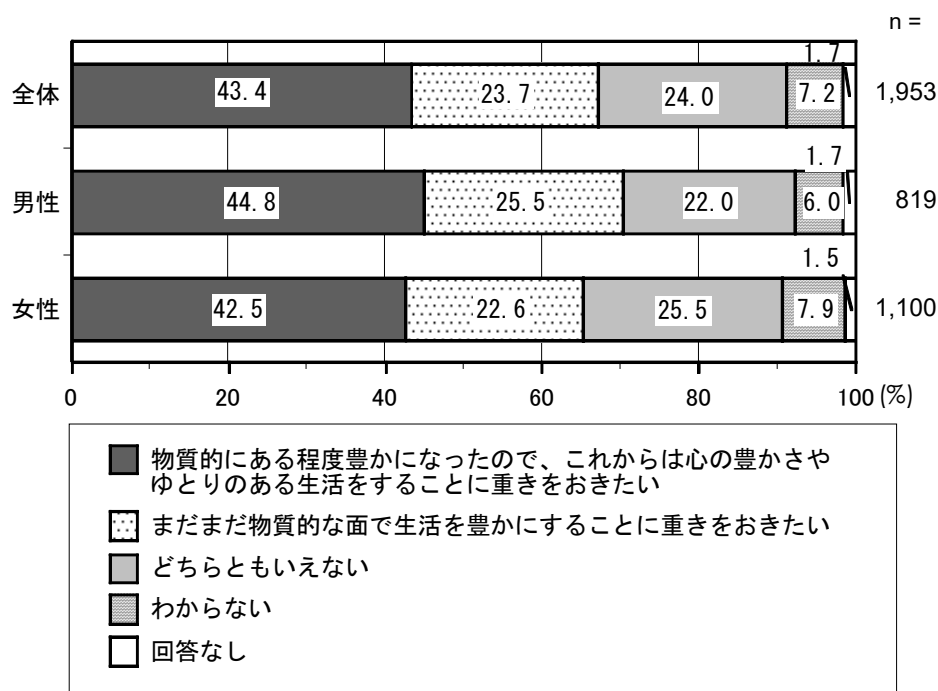


国民生活に関する世論調査(令和元年6月)

【性別】(図8-1-2)

○性別における大きな差異はみられません。

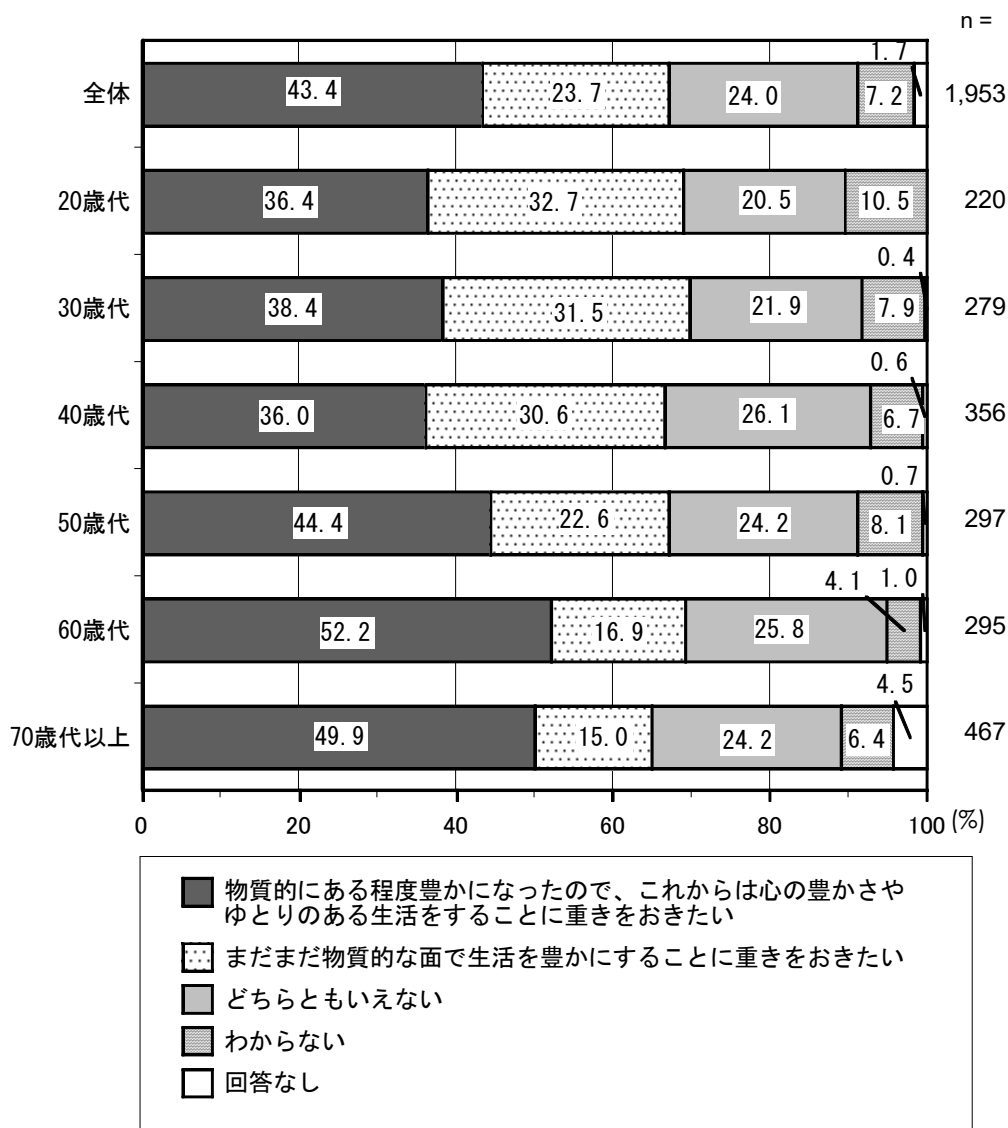
図8-1-2 性別 「豊かさの考え方」



【年齢別】 (図 8-1-3)

○20 歳代から 40 歳代では「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をするに重きをおきたい」がいずれの年齢層も 4 割を下回っています。

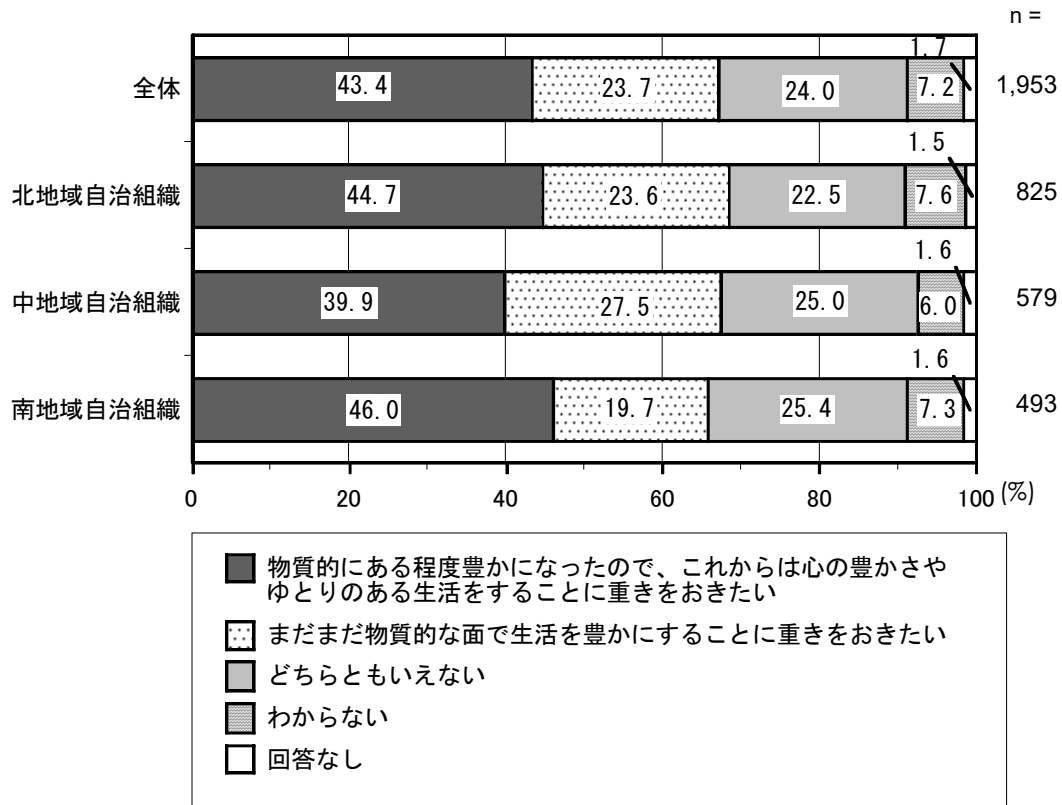
図 8-1-3 年齢別「豊かさの考え方」



【居住地域別】 (図 8-1-4)

○中地域自治組織では「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさ、ゆとりのある生活をするに重きをおきたい」が他の地域に比べて若干少なくなっていますが、大きな差異はみられません。

図 8-1-4 居住地域別「豊かさの考え方」



8-2 時間をとりたい活動（問 32）

問 32 あなたのこれからの暮らし方について、今後、どのような活動に時間をとりたいと考えていますか。【回答数：あてはまるものすべてに○印】

半数以上の人「趣味」と「健康づくり」を選択しています。年齢別では、50 歳代以下が「趣味」、「家族だんらん」、60 歳代以上では「健康づくり」が時間をとりたい活動の 1 位になっています。

【全体】（図 8-2-2）

- 「趣味」が 57.4%、「健康づくり」が 55.0%と多くなっています。
- これらに次いで「家族とのだんらん」が 43.5%、「友人とのつきあい」が 43.0%、「報酬を得て行う仕事」が 37.6%の順になっています。

【前回比較】（図 8-2-1）

- 平成 27 年調査との比較では、今回調査のほうが「報酬を得て行う仕事」で若干増加、「自治会などの地域活動」で若干減少していますが、全般的に大きな差異はみられません。

【性別】（図 8-2-2）

- 「家事」（15.1 ポイント）と「友人とのつきあい」（10.9 ポイント）、「子育て」（10.8 ポイント）「家族だんらん」（9.5 ポイント）については、女性の方が、男性よりも上回っているいます。
- 一方、「趣味」については、男性の方が女性 14.3 ポイント上回っています。

図8-2-1 前回比較「時間をとりたい活動」

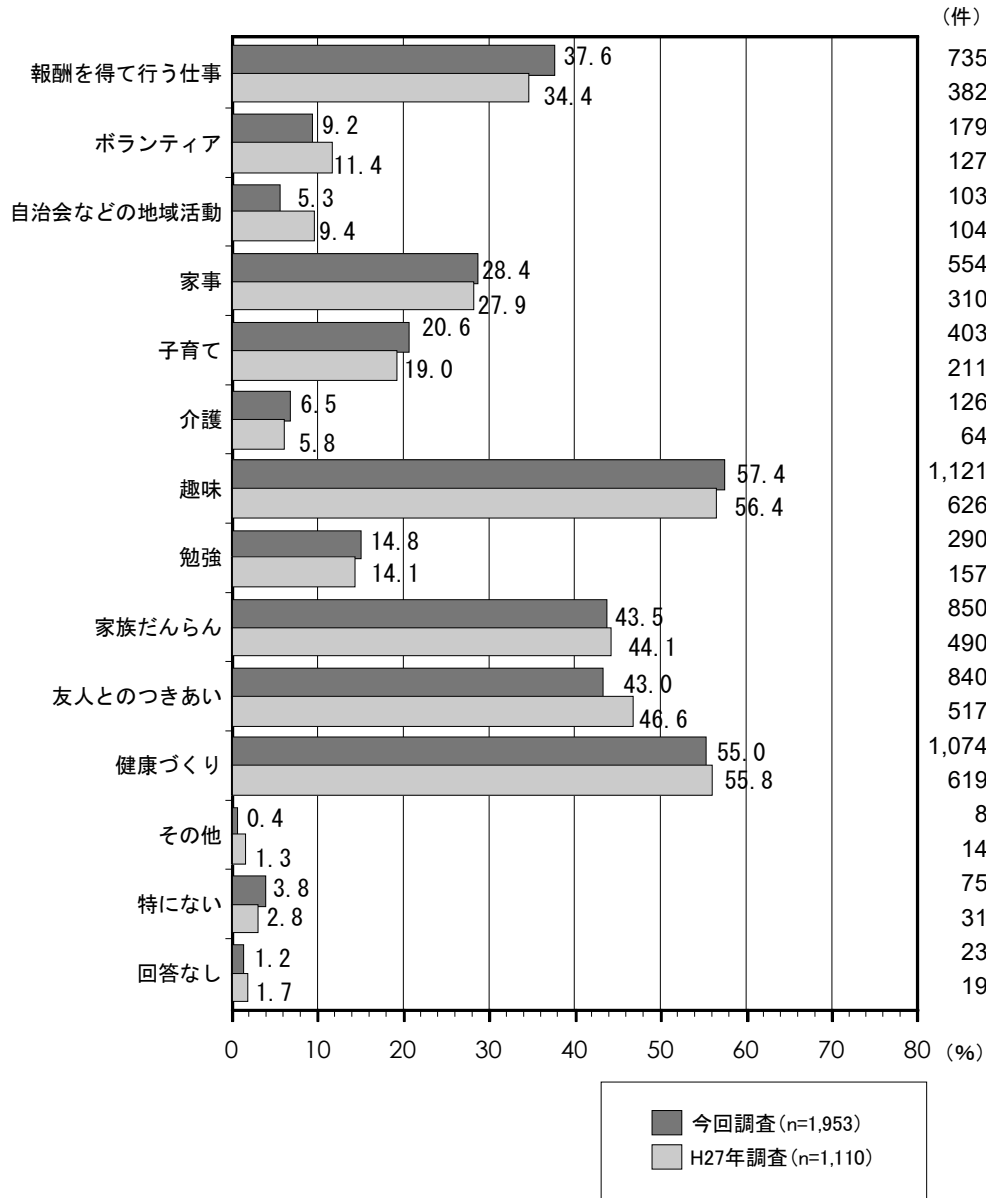
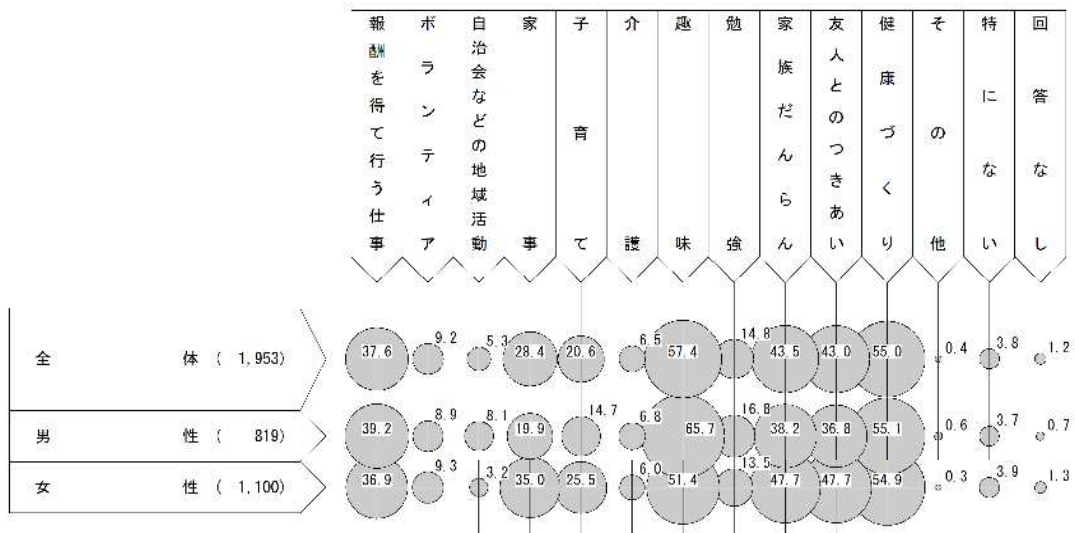


図8-2-2 性別「時間をとりたい活動」



【年齢別】 (図 8-2-3)

○20 歳代は、「趣味」が 67.7%と最も多く、「友人とのつきあい」が 52.7%、「報酬を得て行う仕事」が 50.9%と続きます。

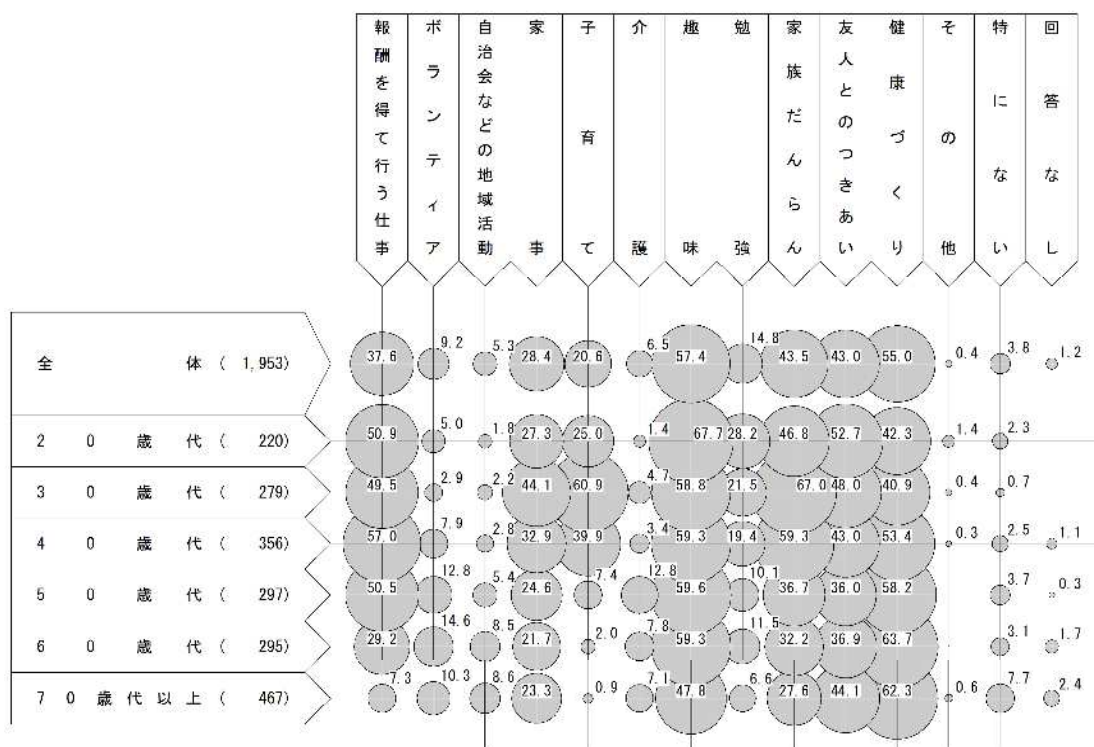
○30 歳代は「家族のだんらん」が 67.0%と最も多く、「子育て」が 60.9%、「趣味」が 58.8%、「報酬を得て行う仕事」が 49.5%と続きます。

○40 歳代は「家族のだんらん」と「趣味」が共に 59.3%と多く、「報酬を得て行う仕事」が 57.0%、「健康づくり」が 53.4%と続きます。

○50 歳代は「趣味」が 59.6%と最も多く、「健康づくり」が 58.2%、「報酬を得て行う仕事」が 50.5%と続きます。

○60 歳代以上になると、「健康づくり」が最も多くなっています。

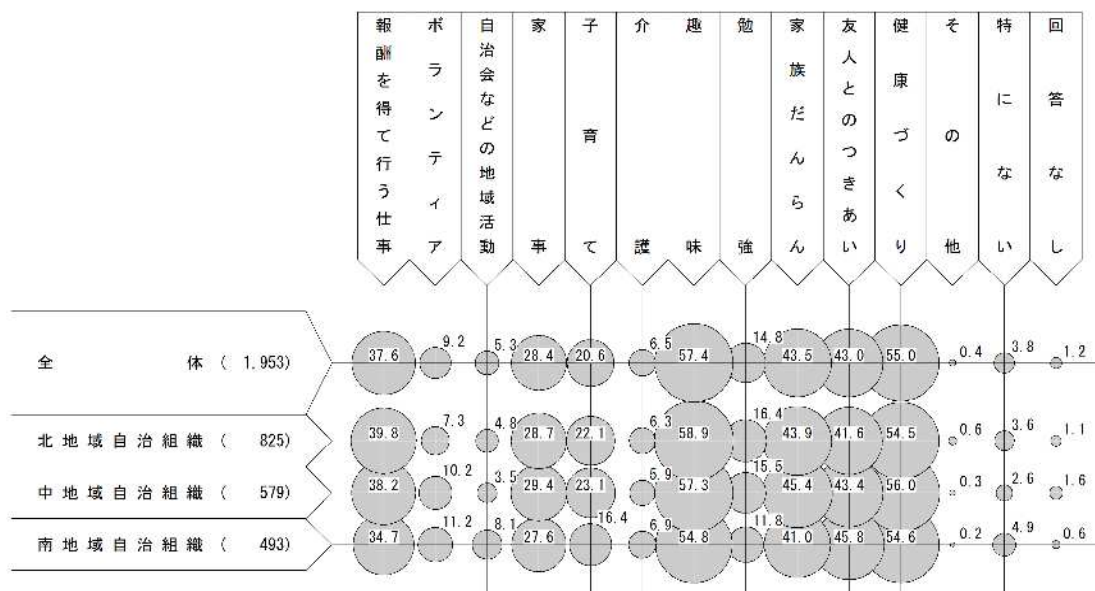
図 8-2-3 年齢別「時間をとりたい活動」



【居住地域別】 (図8-2-4)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図8-2-4 居住地域別「時間を取りたい活動」



8-3 社会貢献に関する意識（問33）

問33 あなたは、日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。【回答数：○印を1つだけ】

世論調査では何か社会のために役立ちたいと「思っている」人の方が63.4%と多いのですが、大口町では「思っている」が37.6%と、「あまり考えていない」の47.9%を下回っています。また、高齢になるにつれて“社会貢献に関する意識”は低下する傾向にあります。

【全体】（図8-3-1）

- 日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと「思っている」と回答した町民は37.6%となっており、「あまり考えていない」（47.9%）を10.3ポイント下回っています。
- 「わからない・回答なし」は14.5%となっています。

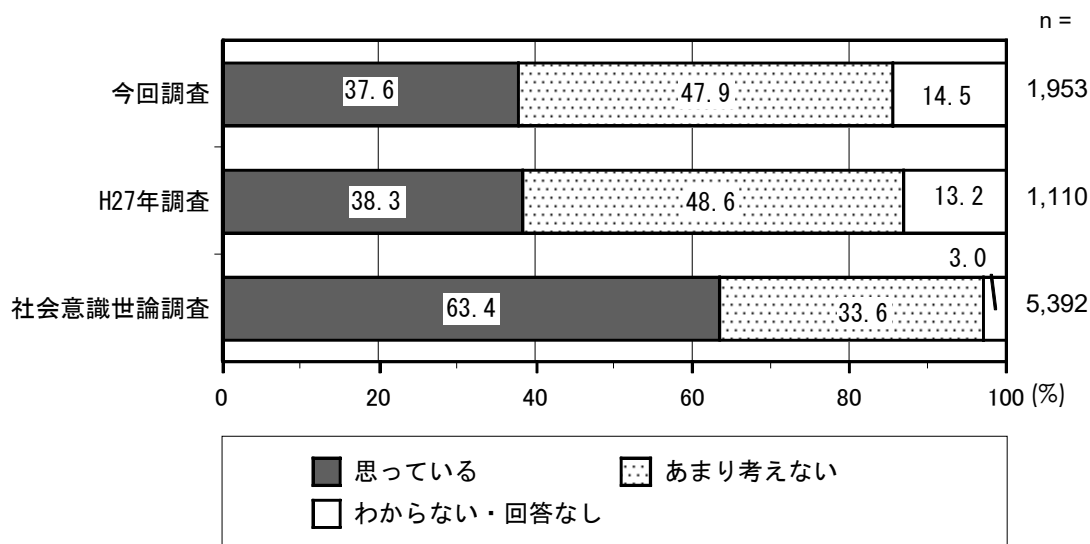
【世論調査比較】（図8-3-1）

- 令和2年の社会意識に関する世論調査では「思っている」が63.4%と、「思っていない」の33.6%を大きく上回っており、国の調査結果に比べて、本町の“社会貢献に関する意識”が低くなっています。

【性別】（図8-3-2）

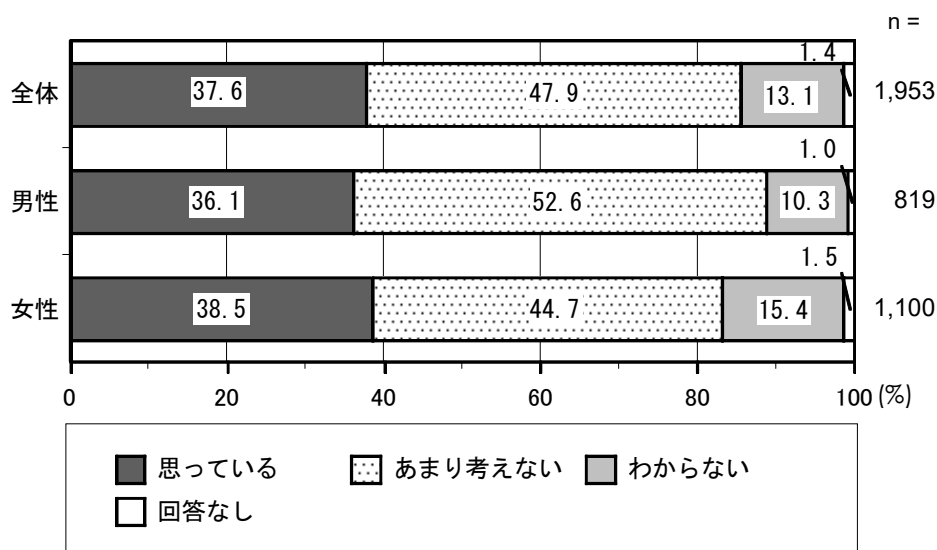
- 男性は「あまり考えない」が52.6%と、女性より7.9ポイント多くなっています。

図8-3-1 世論調査比較「社会貢献に関する意識」



社会意識に関する世論調査(令和2年1月)

図8-3-2 性別「社会貢献に関する意識」

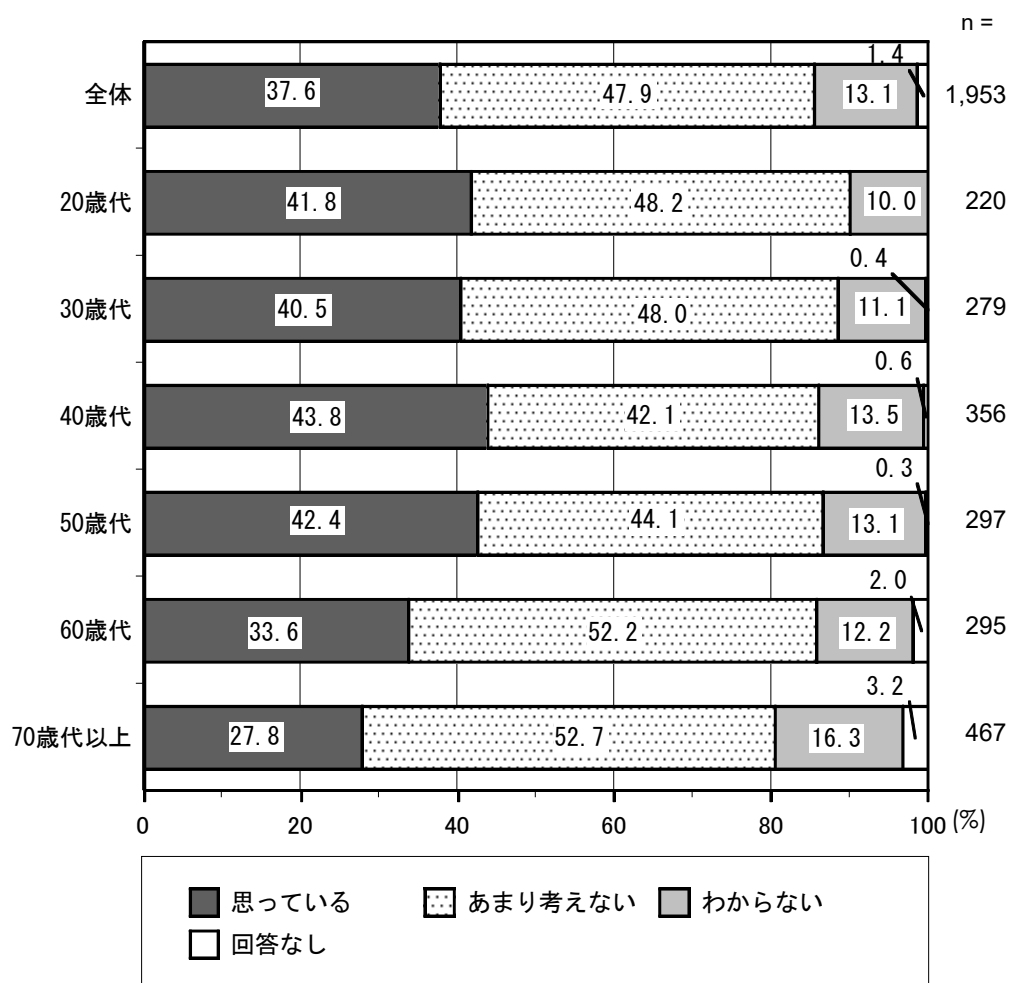


【年齢別】 (図8-3-3)

○40歳代において、「思っている」は43.8%と最も多くなっています。

○60歳代は「思っている」が33.6%、70歳以上は27.8%と、高齢になるにつれて“社会貢献に関する意識”は低下しています。

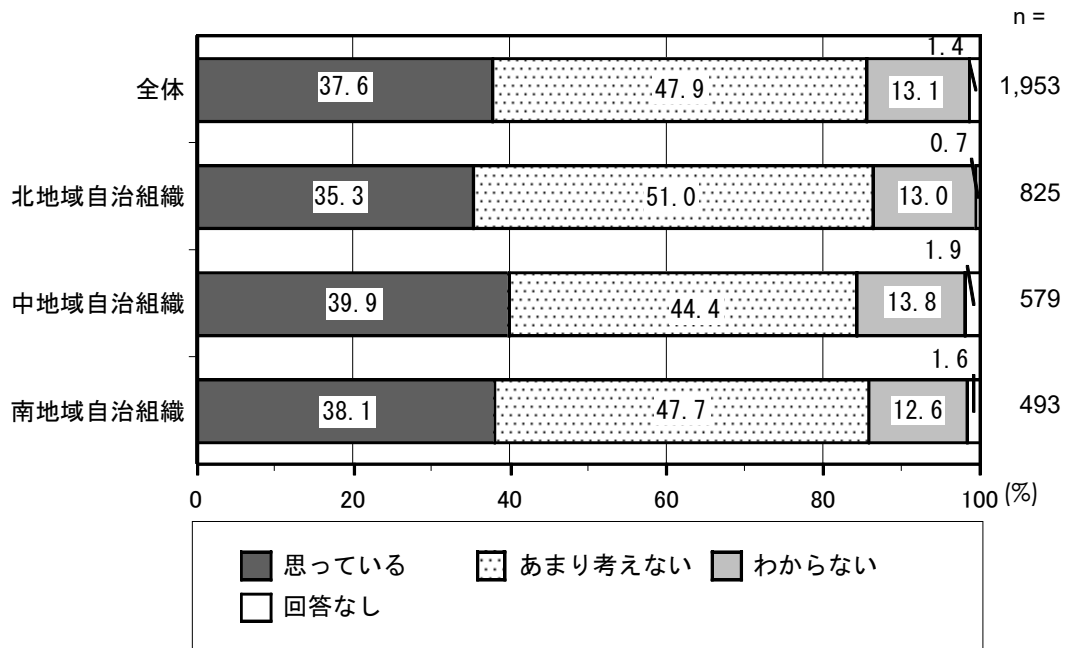
図8-3-3 年齢別「社会貢献に関する意識」



【居住地域別】 (図 8-3-4)

○居住地域別による有意な差は認められません。

図 8-3-4 居住地域別「社会貢献に関する意識」



8-4 具体的貢献内容（問34）

問34 問33で「1. 思っている」と回答した方にお聞きします。何か社会のために役立ちたいと思っているのはどのようなことですか。【回答数：あてはまるものすべてに○印】

問33で「思っている」と答えた735人のうち、38.8%が「自分の職業を通して」何か社会のために役立ちたいとしています。働く世代は「自分の職業を通して」を、子育て世代は「家事や子どもの養育を通して」をより多く選んでいます。高齢者層では、地域社会における活動を選ぶ人が多くなっています。

【全体】（図8-4-1）

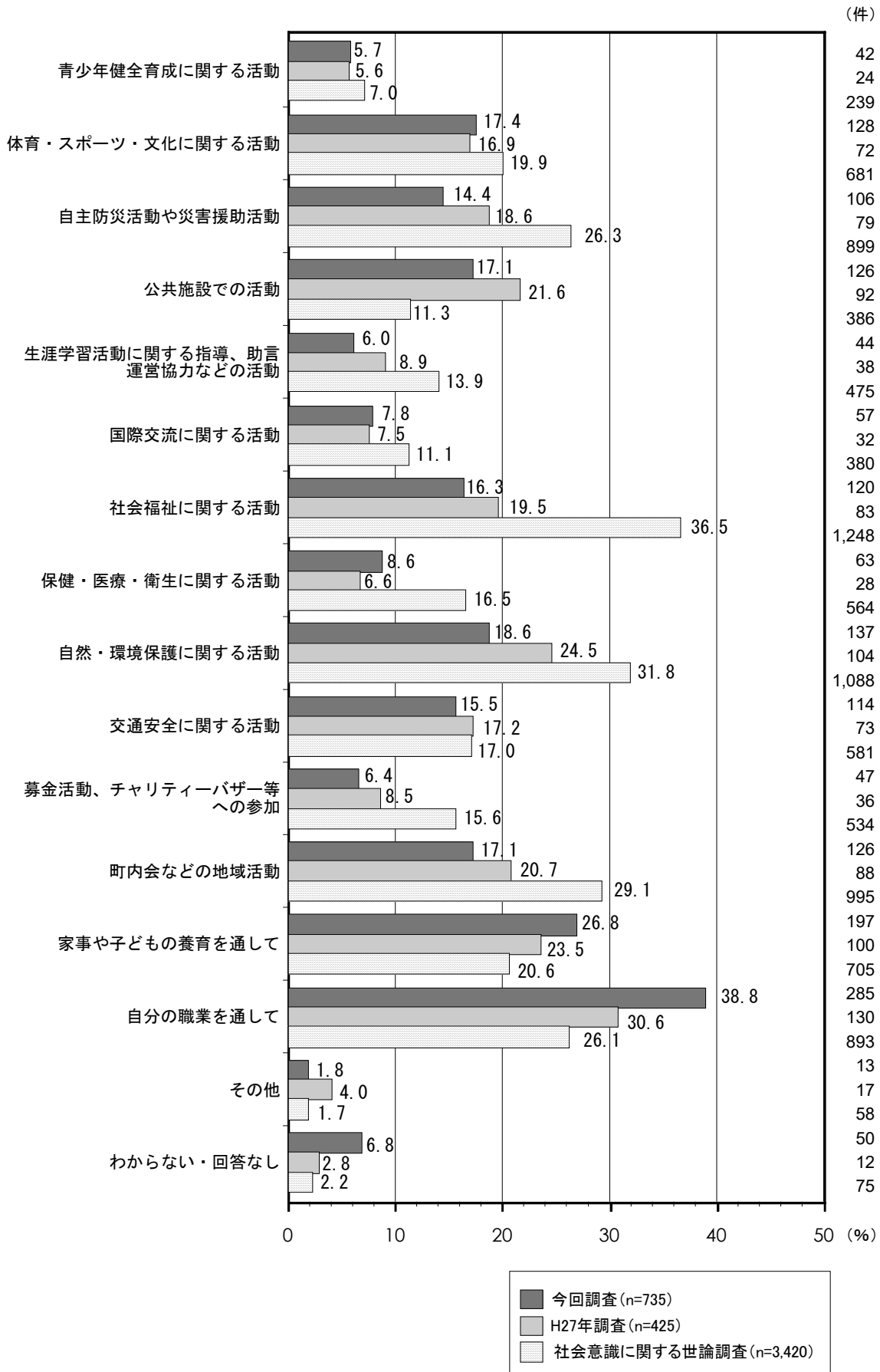
○社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと「思っている」と回答した町民735人に対して、社会貢献の具体的な内容を尋ねたところ、「自分の職業を通して」が38.8%と最も多く、「家事や子どもの養育を通して」が26.8%、「自然・環境保護に関する活動」が18.6%と続いています。

【世論調査比較】（図8-4-1）

○世論調査では、順位が大きく異なっており、大口町では7位であった「社会福祉に関する活動」が36.5%と最も多く、次いで、「自然・環境保護に関する活動」が31.8%、「町内会などの地域活動」が29.1%と多くなっています。

○大口町では1位の「自分の職業を通して」は世論調査では26.1%で、5位となっています。

図8-4-1 世論調査比較「具体的貢献内容」



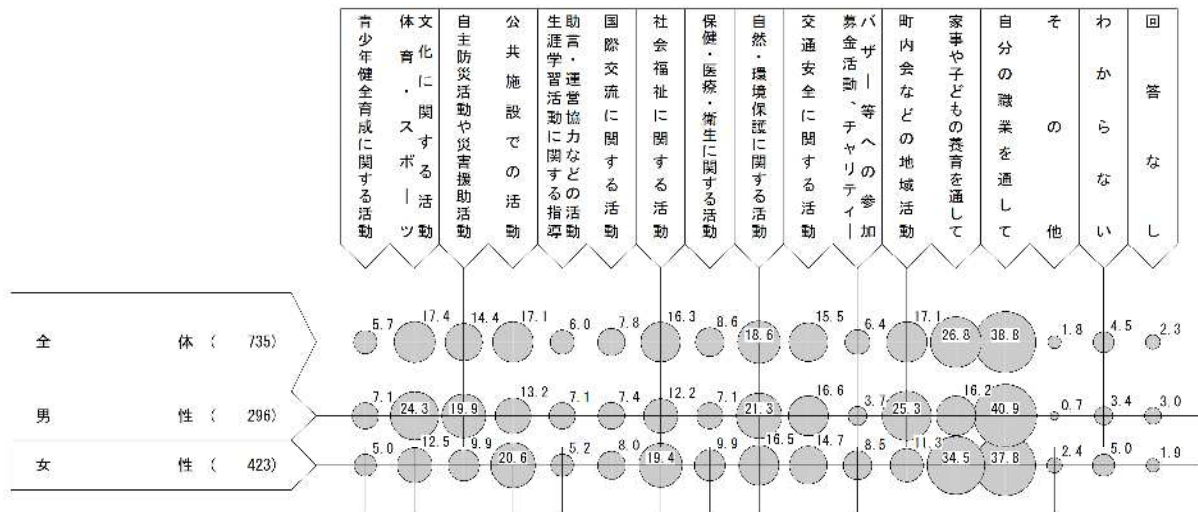
社会意識に関する世論調査(令和2年1月)

【性別】 (図8-4-2)

○男性は「自分の職業を通して」が40.9%と最も多く、「町内会などの地域活動」が25.3%、「体育・スポーツ・文化に関する活動」が24.3%と続きます。

○女性は「自分の職業を通して」が37.8%、「家事や子どもの養育を通して」が34.5%、「公共施設での活動」が20.6%と続きます。

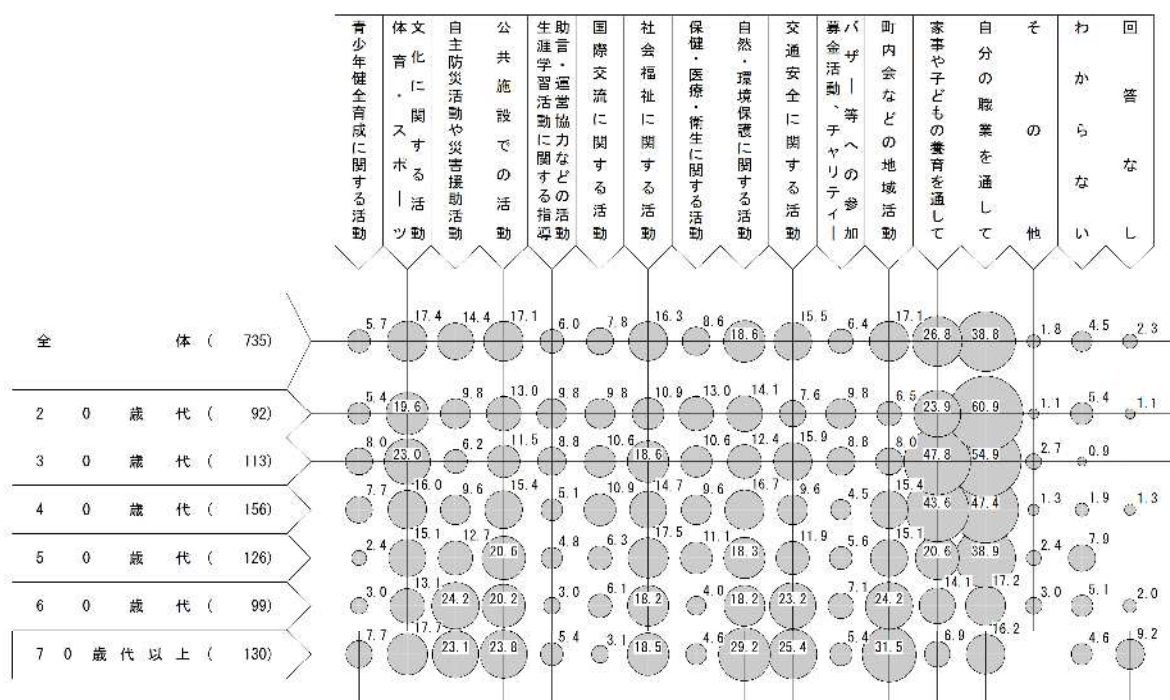
図8-4-2 性別「具体的貢献内容」



【年齢別】 (図 8-4-3)

- 20～50 歳代の現役世代は「自分の職業を通して」が最も多く、20・30 歳代においては、半数以上の人
が選択しています。
- 「家事や子どもの養育を通して」については、子育て世代である 30 歳代で 47.8%、40 歳代で 43.6%と
多くなっています。
- 60・70 歳代は、“職業や育児を通して”ではなく、60 歳代は「自主防災活動や災害援助活動」、「町内会
などの地域活動」を、70 歳代以上は「町内会などの地域活動」を最も多く選んでおり、地域社会におけ
る活動による社会貢献をあげているのが特徴としてみられます。

図 8-4-3 年齢別「具体的貢献内容」



【居住地域別】 (図8-4-4)

- 中地域自治組織では「自分の職業を通して」が45.5%で、全体よりも6.7ポイント上回っていますが、「町内会などの地域活動」については、全体値を5.8ポイント下回っています。
- 南地域自治組織では「町内会などの地域活動」が22.3%と全体値を5.2ポイント上回っています。

図8-4-4 居住地域別「具体的貢献内容」

